

市政ここが聞きたい

いつぱはん質問

本定例会での一般質問は、13人の議員が登壇し、さまざまな角度から市政をただしました。質問（Q）と答弁（A）を要約してお知らせします。

格差社会についての市長の見解

努力が報われる社会を目指す



阿部 一男 議員
(平和環境市民クラブ)

Q 格差社会が国の規制緩和策の中で広がっている。期限付き社員やパート労働者の増加、市の国

保税収納率の低下、生活保護者の増加などの格差拡大について、市長の見解を伺う。
A (市長) 正社員と非正社員との所得格差や都市圏と地方との格差が広がっている。競争社会においては、ある程度は否定的でないが、働く意欲

を持った人や生活を改善向上しようとする人たちの努力が報われる社会を目指すことが必要と考える。
Q 厚生病院移転への対応
A 新県立統合病院への交通アクセスの確保について伺う。

また、花巻厚生病院の跡地利用について、市民参加によるまちづくりの一環として進めるべきと考えるかがかか。
A (政策企画部長) 交通アクセス確保は、県への要望や県交通との意見交換を行うとともに、平成19年度策定の花巻市公共交通計画で検討する。
跡地利用については、地元の花巻中央地区振興協議会で活用策を検討しており、6月ごろには方向性をまとめる。



統合後の有効な跡地利用が期待される県立花巻厚生病院

平成19年度の最重要課題は

市民と行政との協働社会構築



齋藤 政人 議員
(新風クラブ)

Q 景気回復について、都市圏と地方では格差があり、一部の企業を除いては、当地方での回復は

見えない状況にある。また、市においては、国庫補助金の廃止・縮減や地方交付税制度改革などにより財源不足となっている。このような中で財源確保の見通しと平成19年度事業の最重要課題について伺う。
A (市長) 自立した新し

い自治体をつくり上げることが、最重要課題である。平成19年度は、自立した市民と自立した行政による協働社会構築のための「小さな市役所構想」を推進するとともに、健全な自治体経営のための中長期の視野に立った財政運営を行っていく。

Q 市内学童クラブにおける平成19年度の受け入れ状況と市の支援について伺う。
A (保健福祉部長) 前年度の登録児童数を大きく上回る見込みの学童クラブ、特に70人を超える学童クラブへの今後の対応については、各学童クラブの状況に応じ、プレハブ教室の設置や空き教室等の利用など、個別に対策を進めている。



市内学童クラブで登録児童が最も多い「桜台学童クラブ」

川崎市からの譲渡土地の活用

民間による事業展開を目指す



小田島 邦弘 議員
(花巻クラブ)

Q 神奈川県川崎市から無償譲渡された田瀬地区の45畝の土地は、来年3月までに利用計画を策定

しなければならない条件が付いているが、その検討状況や現段階の考え方を伺う。
A (東和総合支所長) 本件は、旧東和町から引き継がれた重要課題であることから、庁内に関係部課長からなる花巻市土地利用会議を立ち上げたほ

か、川崎市職員も交えた土地利用検討組織を設置し、当面、民間による事業展開を目指し、活用の可能性を検討していく。
Q 過疎地への対応は
A 田瀬地区の小・中学校が近年中に統合され、保育園の廃止も危ぶまれ

ている。公共施設等がなくなっていくと高齢化に拍車がかかり、限界集落に近づいていくことも危惧される。市内の山あいの集落の過疎化や高齢化にどのように対応していくのか伺う。
A 各地域に振興センターが開設されることから、地域課題解決に向けて、地域の方々とアイデアを出していただくなど、地域と市の協働により、集落機能の維持・向上に努めていく。



川崎市から無償譲渡された土地（東和町田瀬）